【別紙様式１】

令和８年度学校経営計画表

１　学校の現況

学校番号	89	学校名	茨城県立坂東清風高等学校			課程	全日制			学校長名		鈴木　好史					
教頭名	横倉　敏治		風見　実							事務（室）長名		芦川　孝明					
教職員数	教諭	35	養護教諭	1	常勤講師	12	非常勤講師	3	実習教諭、実習講師、実習助手	6	事務職員	4	技術職員等	13	計	78	

生徒数	小学科	１年		２年		３年		４年		合計		合計クラス数
		男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	
	総合学科	46	36	39	61	52	49			137	146	11
	農と食科	10	5	16	4	8	8			34	17	3

２　目指す学校像

１　普通教育・専門教育を通して、確かな学力を育み、未来を創造する力を持った人材を育成する学校
２　個に応じた学習を通して、高い専門性と実践力を培い、社会において生きる力を備えた人材を育成する学校
３　地域との連携・交流を通して、地域愛・協働する力を育み、地域のニーズに応え郷土の発展に貢献できる人材を育成する学校

３　三つの方針（スクールポリシー）

育成を目指す資質・能力に関する方針 （グラデュエーション・ポリシー）	確かな学力を育み、未来を創造できる人材の育成 地域と連携・交流を通して、地域愛を育み、地域のニーズに応え郷土の発展に貢献できる人材の育成
教育課程の編成及び実施に関する方針 （カリキュラム・ポリシー）	自ら課題を見つけ、それを解決しようとする過程を通して生きる力の育成 キャリア教育の充実を図り、個の希望に応じた大学進学から就職までの多様な進路希望の実現
入学者の受入れに関する方針 （アドミッション・ポリシー）	人文、自然、情報ビジネス、ライフデザイン、農業の各分野に興味を持ち、進路実現のために努力する生徒 学校や社会の規範を守り、学校行事や部活動に積極的に取り組むことのできる生徒

４　現状分析と課題（数量的な分析を含む。）

項目	現状分析	課題
学習指導	与えられた課題には取り組むが、自ら進んで学習しようとする姿勢がやや不足している。個に応じた指導や授業改善の推進を通して学習意欲の向上と基礎学力の定着を図る必要がある。令和８年度から外国人生徒支援重点校の指定を受け、日本語能力に困難を抱える生徒向けの取り出し授業の充実や工夫改善が必要である。	生徒の主体的活動を促すために、生徒の実態把握や積極的なICT機器の活用、生徒による授業評価の振り返り、授業改善に向けた研修が必要である。日本語能力に困難を抱える生徒向けの取り出し授業について「やさしい日本語」やＡＩで教材を生徒の母語へ翻訳するなど基礎的内容を理解させる工夫を凝らした授業が必要である。
進路指導	進路意識は決して低くないが、進路に関わる知識や進路情報を精査する力には依然として未熟さが残る。また進路実現に必要な基礎学力、学習に対する意欲や継続力が不足している。主体的な進路選択、望ましい進路実現のため、個に応じた進路指導とキャリア教育の充実が必要である。（参考：R7　就職内定率100%　進学決定率100%）	職業や上級学校への理解を深めるため、進路選択に対する早期の意識付け、適切な情報提供、インターンシップ等の体験的活動を実施する必要がある。また、個々の進路希望に応じた課外指導や各種試験、模擬面接等を計画的に実施し、学力を向上させていく必要がある。
生徒指導	明るく素直で、きちんとした行動が取れる生徒が多い反面、周囲に流され自身で善悪を判断せず行動してしまう生徒も見られる。各場面で、自律的な行動を促す指導が必要である。特別指導実施生徒（R7）10.6%。※（R6）6.5%	自己肯定感を高め自律的行動が身に付くように、教職員が共通理解のもと粘り強く丁寧に指導を進める。
特別活動	学校行事を通じて帰属意識や自己肯定感の育成を図っている。主体的に生徒会の運営に携われる生徒、部活動で活躍する生徒も見られるようになってきた。	生徒に学校行事の企画・運営に主体的に取り組ませる。部活動については、生徒自らが意欲的に活動できる環境の整備・支援をする。
働き方改革	働き方改革に対する教職員の意識は向上し、月45時間を超える超過勤務の教職員も減ってきている。部活動については、県部活動運営方針に則った活動計画の立案に基づき、適切に実施できている。	校務分掌・学年・教科等で業務内容の精選を図り、持続可能な業務の効率化を進める。

５　中期的目標

１　基礎学力の向上や確かな学力の育成を図り、自らの力で社会を生き抜く知性や教養など、活用できる能力を養う。
２　キャリア教育を充実し、望ましい職業観や勤労観、社会性を養い、将来の夢や希望の実現を目指す。
３　文武両道を推進すると共に、様々な体験や学習活動を通し、心身ともに健全で豊かな人間性を養う。
４　総合学科と農と食科の併設校として、積極的に情報を発信し、地域の期待に応え信頼される学校を目指す。
５　働き方改革を推進し、心身ともに健康的で働きやすい職場環境の構築を目指す。

６　本年度の重点目標

重点項目	重点目標
ア　個に応じた学習指導を通した基礎学力の向上	① 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善に努める。 ② 観点別学習状況の評価の浸透を図る。 ③ ICT機器を積極的に活用し、学習意欲の向上や基礎学力の定着を図る。 ④ 各種検定試験の合格者(昨年度比)を増加させる。 ⑤ 年間2回以上の相互授業参観等の取り組みを通して、学習指導の工夫･改善を図る。 ⑥ 日本語能力に困難を抱える生徒向けの取り出し授業の充実や工夫を図る。
イ　個に応じた進路指導の実践によるキャリア教育の充実	⑦ 職業観・勤労観を形成し、自己目標を明確化させるため、個別面談の充実を図る。 ⑧ キャリアカウンセリングや地域と連携したインターンシップ等の体験的活動により、生徒の進路意識を高める。 ⑨ 基礎学力の定着や学習能力の向上を図るため、課外体制の充実と情報提供に努める。 ⑩ 資格取得など特色を生かす教育課程の充実を図る。 ⑪ 生徒・保護者への情報提供や参加型の行事の充実を図り、進路意識の向上に努める。 ⑫ 外国人生徒に将来の見通しをもたせる教育に努める。
ウ　人間性・社会性を養う教育活動の展開	⑬ 学校生活をとおし、自らを律するとともに、他者との協調性を培う。 ⑭ 学校行事や部活動など様々な場面で、自己有用感や自己肯定感を高め、母校愛を育成する。 ⑮ 各種講演会や面談をとおし、生徒の自己理解・自己指導能力を育成し、問題行動や事故等の未然防止に努める。 ⑯ 地域や社会の行事に積極的に参加し、地域社会に貢献できる人材の育成を図る。 ⑰ 外国人生徒支援等をとおして多文化共生の推進を図る。
エ　特別活動・広報活動の活性化	⑱ 生徒が主体的･積極的に参加できる学校行事を企画･運営する。 ⑲ 部活動の加入者が主体的に活動を継続できるよう環境の整備･支援をする。 ⑳ ホームページや学校説明会(年3回)を充実させ、本校の教育活動を学校内外に積極的に発信する。 ㉑ 定期的に中学校訪問を行い、中学校との連携を深め、志願者の増加(昨年度比)に努める。 ㉒ キャリア･パスポートを活用し、生徒の自己理解の深化に努める。
オ　働き方改革の推進	㉓ 業務内容の整理や情報の共有、 ICT機器の活用などを通して、校務の効率化に努める。 ㉔「時差出勤」、「ワークフロー」、「テレワーク」の活用などを通し、職員一人ひとりの働き方について意識を高め、心身の健康と安全を確保する。 ㉕ 県部活動運営方針に則った活動計画の立案により、職員の時間外勤務の縮減に努める。
カ　授業改善の推進	㉖ 生徒による授業評価を用いて、授業満足度の平均値における年度内（１回目から２回目）での上昇や生徒自由記述を振り返ることで授業の改善に努める。 ㉗ 授業改善推進チームを中心に情報の共有や校内研修等の充実に努める。